

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（第25期・第2回）
議事録（案）

1 日 時 2021年1月29日(金) 11:00～13:10

2 方 法 オンライン開催（Zoom）

3 出 席

委員：小林傳司、高村ゆかり、馬奈木俊介、狩野光伸、古谷研、沖大幹、小池俊雄、
三枝信子、春山成子、植松光夫、江守正多、大手信人、春日文子、蟹江憲史、香坂玲、
近藤昭彦、近藤康久、杉原薫、谷口真人、氷見山幸夫、福士謙介、村山泰啓、渡辺知保
参考人：安成哲三、山本百合子
オブザーバ：ハインマレー、川田能理子
事務局：薦田有紀子
欠 席：竹中千里、中村尚

4 議題等

- 1) 分科会の委員について
- 2) 第25期における本委員会の進め方について
- 3) フューチャー・アースの活動、成果、今後の展望
- 4) 日本におけるフューチャー・アース研究の推進について
- 5) その他

5 配布資料

資料 1-1：フューチャー・アース国内連携分科会 委員名簿
資料 1-2：持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会 委員名簿
資料 2：第25期における本委員会の進め方について（沖委員長）
資料 3-1：国際的な FE のこれまでの主要な科学的成果（安成委員）
資料 3-2-1：HD（Human Dimensions）について（氷見山委員）
資料 3-2-2(1)：国際的な GRP への日本からの関わりの実例紹介（植松委員）
資料 3-2-2(2)：Future Earth KAN の日本の学術コミュニティへの貢献（谷口委員）
資料 3-2-2(3)：Benefits of taking part in a Knowledge-Action Network（福士委員）
資料 3-3：FE日本委員会の現状と今後の展望（江守委員）
資料 3-4：Future Earth 国際活動報告（春日委員）

6 議事内容

1) 分科会の委員について

沖委員長から、フューチャー・アース国内連携分科会の趣旨説明を行った。委員については資料 1-1 のとおり 1 月の日本学術会議幹事会で承認されたことが報告された。

持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会については、氷見山委員から趣旨説明を行い、資料 1-2 のとおり幹事会で承認されたことが報告された。なお、資料 1-2 の分科会

名称について、「接続可能な」を「持続可能な」に修正する必要があることが指摘された。

2) 第 25 期における本委員会の進め方について

沖委員長より、第 25 期における本委員会の進め方について説明がなされた。はじめに、第 25 期におけるフューチャー・アース関連組織（委員会や分科会）の位置づけが紹介され、本委員会の役割として様々な分野の専門家との熟議によりフューチャー・アースに関連する研究が推進されるようにすることなどが挙げられた。続いて今回の委員会の進め方が提案された。今回は実質的な議論のできる初めての委員会であることから、前半ではこれまでの成果と今後の展望について複数の話題提供に基づいて振り返り、後半では少人数に分かれてグループ討論を行い意見を収集したいとの趣旨が説明された。

3) フューチャー・アースの活動、成果、今後の展望

これまでの活動と成果を振り返り、今後の展望を考えるために以下の話題提供が行われた。

- ・国際的なフューチャー・アースのこれまでの主要な科学的成果（安成委員）
- ・地球環境変化の人間的側面研究計画（IHDP）について（氷見山委員）
- ・Future Earth KAN の日本の学術コミュニティへの貢献（谷口委員）
- ・Benefits of taking part in a KAN (Urban)（福士委員）
- ・Ocean KAN への日本からの参加にどのような利点があるか（沖委員長：植松委員代理）
- ・フューチャー・アース日本委員会の現状と今後の展望（江守委員）
- ・Future Earth 国際活動報告（春日委員）

4) 日本におけるフューチャー・アース研究の推進について

次の 3 つの議題について、6 つのグループに分かれて討論を行った。

議題：

- (1) 25 期のフューチャー・アースの推進と連携に関する委員会の目標と活動
- (2) 今後推進すべきフューチャー・アース的な研究について
- (3) 日本におけるフューチャー・アースコミュニティの連携強化に向けて

グループ：

- A-1 議題(1): 小林、沖、近藤(昭)、渡辺
- A-2 議題(1): 小池、三枝、氷見山
- B-1 議題(2): 高村、蟹江、香坂、福士、安成
- B-2 議題(2): 古谷、大手、近藤(康)、杉原
- C-1 議題(3): 春山、馬奈木、春日、マレー、川田
- C-2 議題(3): 江守、谷口、山本、村山、狩野

グループ討論では、Zoom の機能を使って 6 つのグループに分かれ、それぞれ司会者、書記、報告者を決めた上で、分担した議題について討論を行った。最後に出席者全員が参加する全体の委員会に戻り、報告者から各グループの討論のまとめを発表した。

5) その他

委員会の今後の進め方について、オンラインであれば旅費に縛られる必要はないので、従来の開催方法や頻度にこだわらず、委員長の采配で必要に応じて必要なメンバーで開催することを検討するとよいといった意見があった。

以上